



## 7月に向けて

代表取締役 三田雅憲

梅雨に入り湿度や気温が高くスッキリしない日々が続きます。熱中症や食中毒に注意してください。今月は2年前（コロナの真っ只中で）書いた社報より抜粋しました。社外クレームがこのところ続きイライラする日々ですが、自分を戒める意味でも皆さんと学びたく思います。

先日、ある社員に対して工場長と事務長に参加してもらい、時間をとって人にやってもらったり、指示を受けた事柄に対して、あまりにも無神経であったり、当事者意識が無すぎたり、叱ってもらった人の愛情に対して無頓着なことに対してその社員に指導をしておりました。仕事が忙しい中において、その社員の為に時間を割いてもらいました。

その日、あまり納得のいっていない顔をして帰ったのですが、次の日の朝、全くその事柄に対して「昨日は時間を頂きありがとうございました。」との一言が無かったので、私は感情を抑えきれずに雷を落として他の社員の前で怒りました。「もう嫌なら会社に来なくても良い！」とまで言いました。その後、十分反省した様子でお詫びを言ってきたので、私も強く言ったことを反省しました。しかし、先代がよく私や他の未熟な社員を叱ってくれていたことを思い出しておりました。厳しく叱ってくれましたが、恨んだりすることはありませんでした。

元楽天監督で故 野村克也氏が次のように述べておられます。「叱る」と「怒る」の違いが分かるかの一節です。

相手に対して怒ってはいけません。叱るべきである。と私は思っています。

「怒る」というのは大抵、一時的な感情の爆発であり、自分の機嫌が悪く一種のストレス発散のために感情に任せて声を荒げたりする。怒った側はスッキリするかもしれないが、怒られ側は全くスッキリしない。それは、この歳（84歳）になっても同様である。一流のプロ野球選手は常に冷静で平常心な人が多かった。乱れた心ではバットも当たらない。「怒り」という感情は自滅への第一歩。だから私は冷静であることを心掛けています。

では「叱る」と何が違うのか？「叱る」は相手への愛情が必ずある。愛情があるからこそ、叱ることが出来ると思っている。相手にもっと良くなるような成長を促すのだ。何がいけなかったのか？悪かった点、失敗した点に気付かせ次に失敗をしないためにはどうすれば良いかを考えさせる。そうやって相手が少しでも成長することを願って叱るのだ。なんとも思っていない相手をいろいろ叱ることではない。

もっと言えば、優しく接することだけが、愛情ではないということだ。叱られた側も相手が自分の為を思って言っていることを理解すれば、そのことをバネにして成長しようと奮起するはずだ。「次は失敗しないぞ」と思うところから成長は始まる。「失敗と書いて成長と読む」とは、私が良く言っている言葉だが、まさに失敗から人は成長していくものであるし、又そうでなければならない。

又、人として本当に成長するためには謙虚さが無ければならない。人が謙虚さを認識するのは何かで失敗し、挫折を経験したときであろう。挫折して初めて気付くことがたくさんある。自分の至らなさ、不甲斐なさ、努力の足りなさ、未熟さなど思わず目を逸らせたいくなる事ばかり、でもそこで「自分はまだまだだ！」と思えば謙虚になれる。謙虚さがあれば周りもきっと味方してくれる。今辛い状況にあると思っても謙虚さを自分が身に付ける大切な時期であると割り切ってなんとか乗り越えてもらいたい。

とその著書「老いのボヤキ」に書いておられます。

「大人になろうネ」「人の痛みのわかる人間になろうネ」等、日頃皆様に伝えている言葉は、これからあなた方の未来をきっと明るくしてくれると思います。

お互い謙虚で素直な気持ちで7月を過ごしていきましょう。